

「住民の安全と尊厳を守るのが行政の責務だ」として、ヘイトスピーチ勢力への規制施策を議会で表明し深化させてきた、門真市の2011年9月議会からの歩み！

- ▲差別怒号デモ街宣は差別助長・人権侵害の危険あり。民族、国籍などを捉まえての差別行為は許されない。
- ▲市内で差別怒号行為（ヘイトデモ）が起これば、批判見解を表明し、厳しい対応を取る。
- ★差別怒号暴力の常習団体や個人には公共施設（会館、公園、道路等）を貸さない。
- 全部署の職員（教番も含む）にザイトク問題についての研修を毎年実施。（戸田作成動画も使って）
- 学校生徒が街頭やネットでヘイト行為をした事が判明したら厳しく教育指導する。
「在日特権デマ」を誤信した市民意見には誤りを指摘しきちんと啓発していく。
- ★「反ザイトク人権施策の主管は（市民部）人権政策課」と定めて、（教番も含んだ）行政としての責任の所在を明確化！これがザイトク問題の情報収集、情報共有、職員研修や市民啓発を主導する体制になった。

**門真市とは逆に
住民の安全と尊厳を
守らない自治体の例**



大阪府門真（かどま）真市議：戸田ひさよし「革命21」（議会では「無所属」）
門真市新橋町12-18 三松マンション207 TEL：06-6907-7727 FAX：06-6907-7730
アドレス：toda-jimu1@hige-toda.com HP：http://www.hige-toda.com/



【ほとんどの自治体】

ザイトクに無為無策。差別街宣や差別ビラやらせ放題。押しかけや要求されると場当たり的で腰の引けた対応をするのみ。

【少しマシな生駒市】

ザイトク攻撃押し切って外国籍住民含めた住民投票規定を設置。在日の市民委員への攻撃に謝罪求め、謝罪無しで面談拒否。ただし市内での差別街宣・ビラまきは放置。

【最悪の尼崎市】

- ◆ザイトクが市議会傍聴で在日女性を困らせて差別罵倒攻撃しても放置！「市民派女性市長」も職員も知らん顔！
- ◆「人権派」議員達（市民派・共産・社民・民主）は「ザイトク相手にせず」と称して保身で反ザイトク闘争を抑止し、市民を攻撃にさらす！

【大変良くない大阪市・大阪府】

- ◆名高い同和人権行政はどこへやら。ザイトクに会館・公園・道路を使わせ放題、ヘイト街宣・デモやらせ放題！
- ◆維新の市議・府議はザイトクと仲良し！府教育長（中原徹＝橋下と大学同窓の弁護士）もザイトクと仲良し！

- 日本には40年近い年月に渡る「同和人権行政」の蓄積がある。
だから公園のトイレに部落差別や朝鮮人差別の落書きがされたら、行政的に大問題になって行政当局が批判見解や啓発宣伝を出すようになっていく。
従って、「トイレの差別落書き」の何万倍も悪質な「公衆面前での差別罵倒・差別扇動」は、行政的に大問題として取り上げるべき事である。
そしてそれは、「前例踏襲主義」で簡単に出来る事で、役所が苦手な「新規発想」を必要としない事だ。従来の同和人権行政の簡単な横滑りで済む話だ。
- なのに、なぜそれを誰も指摘しないのか？ 行政にやらそうとしないのか？
なぜ「人権派」議員達は行政を突き上げようとしていないのか？
なぜ各種人権運動団体や活動家達は議員や行政を突き上げないのか？ 不思議だ。
- 戸田は2009年4月にザイトク行動の存在（わらび市カルデロンさん一家小中学生攻撃事件）を知ってすぐにこの方策を思いついた。
だから2010年連帯ユニオン議員ネット大会でこの方針を明示し、市議復活後の2011年9月議会で門真市に採用させた。しかし他の自治体は未だに……

- 「自治体行政の施策として反ザイトクをやる」という事は、
- ★「恒常的システムとしてザイトク行動を封殺する」地域体制を作る
（その都度人集めが必要で、一部でしか実施出来ないカウンターではなく、一部の人の「勇気」にのみ頼るのではなく）
 - ★その自治体の何万何十万の住民全てに啓発出来る（行政HPや広報）
 - ★その自治体の（市町村なら小中、府なら高校）学校での教育指導や、社会人教育として実施出来る。
 - ★民間委託も含めた全職員に反ザイトクの職員研修を継続出来る。
 - ★地元警察を人権行政への支援勢力として活用出来る
（地元警察は地元行政首長の領分を侵すようなザイトク支援は出来ない）
 - ★「安全安心なまちづくり」、「品格のあるまちづくり」という全国的な行政スローガンに完全に合致する。（換骨奪胎！）
 - ★ザイトクに会館・公園・道路の使用を許さないのだから、ほぼザイトクの登場を防げる～住民の安全等を意味している。こんな素晴らしい事になぜ関心が低いのだろうか？

＝門真市が反ザイトク施策を進めた経緯＝

＝門真市行政にそれを進めさせた戸田の戦略と戦術＝

前史：2009年～2011年8月：ザイトク暴力が勃発、拡大！

2009年：



- 3月：秋葉原で在特会「外国人参政権反対デモ」が歩道上のたった1人の反対者を集団暴行！
- 4月：■ 埼玉県蕨（わらび）市でカルデロンさん一家の自宅・小中学生に追放罵倒デモ事件
- 6月：「外国人参政権反対！」を掲げた「6/13京都市デモ」で関西初登場！←カウンター行動
- 10月：大阪市デモ、宝塚役所抗議の街宣・脅迫行動。従軍慰安婦問題宣伝への妨害襲撃常態化。
- 11月：大島淡紅子（ときこ）・宝塚市議（社民党）事務所が襲撃された！
- 12月：■ 京都朝鮮初級学校への襲撃事件！⇒☆戸田HPでザイトク問題特集を開設！

2010年：

- 1月：西宮駅頭で従軍慰安婦問題宣伝を襲撃、負傷者。
- 2月：☆「連帯ユニオン議員ネット」大会でザイトク糾弾特別決議
- 3月：■ 生駒市役所・議会棟襲撃事件
- 4月：■ 4/7大阪駅前で戸田を襲撃！4/11戸田自宅へ右翼襲撃街宣。4/14徳島県教組襲撃！
- 7月：☆戸田襲撃で宮井将逮捕、8月：京都朝鮮学校事件で逮捕、9月：徳島県教組事件で逮捕
- 8月：■ザイトクが8/63ヒロシマに登場し、被爆者罵倒・核武装宣伝をする事が常態化。
- 10月：川西市議選にザイトクおつる＝中曾千鶴子出馬！（落選したが）

2011年：



- ◆ 3/11大震災・福島原発破壊事故！戸田は「3/24公民権停止解除」⇒4月市議選で活発に活動。在特凶悪犯＝荒巻靖彦と親しい維新の宮本一孝府議への批判を開始！
- 3月にザイトク西村齊が戸田を「虚偽告訴罪」で刑事告訴し、ほぼ同じ時期に中曾千鶴子が戸田を「名誉毀損罪」で刑事告訴して、公安警察と結託して戸田弾圧を水面下で準備していた！
- ★4/24門真市議選で戸田が8位当選し議員復活！（権力弾圧で2年間失職していた）
- 5/31に中曾の不当告訴を使って兵庫県警公安が戸田にガサ入れ弾圧！！
- これに連動する形で5月頃（？）奈良のザイトク山道が戸田とHP掲示板投稿市民2人を「名誉毀損罪」で告訴していた！・・・6月・7月に奈良警察の事情聴取に応じつつ反撃。

2011年9月議会・本会議質問：反ザイトク施策の土台を作った全国初の議会答弁！！

＝戸田の戦略・戦術＝

- 1：「差別・人権侵害問題として反ザイトクの姿勢を表明する」こと自体は、「同和・人権行政での論理」を横滑り的に応用すればよいだけだし、「金は全くかからない」事だから、行政としては本来は「簡単に踏み出せる事」である。そういう理屈で迫られたら市はすぐに同意せざるを得ない。
- 2：しかし行政マンはザイトクの実態を全く知らない。ザイトクの酷さは「人の想像を絶する」ものなので、まずは映像を職員に見せて教える必要がある。⇒役所のPC事情から、USBにザイトク動画を入れて職員に見させた。また、「門真市にもザイトク登場可能性あり」を納得させた。
- 3：「担当部署がはっきりしない」という事も問題だ。
- 4：議会で初めてザイトク問題を取り上げるにあたって、まずは「市長部局」だけを相手にするものとして、「本会議一般質問」で取り上げる事にした。これで良い答弁を引き出した後に文教委で教委を相手にする方が効率的だと判断した。
- 5：「差別・人権問題」と「門真市の街頭でザイトク行動が起こった場合の対応問題」は「市民部（人権政策課）」、「役所や議会に押しかけられた時の対応」は、「総務部（管財課）」を選定して答弁させた。
- 6：当時の「人権政策課」の実態は、非常に低レベルだった。（その後、戸田の指摘を受けて段々改善されていくが）

{その成果や意義}

- 以下の諸点を初めて行政に同意させた意義は大きい。
- 1★：出生や民族、国籍などの属性そのものを非難攻撃する事は、落書きであれ、口頭であれ、プラカードであれ、差別行為として批判されるべき。
 - 2★：とりわけ、それを公衆の面前での演説やシブレヒコールやデモで行なう事や、デマを使った民族憎悪扇動をする事は、特に悪質な差別行為である。
 - 3★：攻撃対象にされる住民がそれによって傷つけられ、恐怖を感じる。
 - 4★：子ども達にも悪影響を与え、長年の人権教育・人権行政が破壊されてしまう。（教育委員会所管の教育問題にも関係する）
 - 5★：門真市内でそういう差別の宣伝やデモ事件が起こった場合は、市は事実の調査確認をして、行政としての批判見解と市民啓発をすべき。
 - 6★：役所抗議で業務妨害があれば厳しく対処する。
- ※「これまで市内で起こった部落差別や民族差別事件の実態と、それへの行政対応」を問い、市側は、世界人権宣言・国際人権規約・日本国憲法に加えて、「門真市人権尊重のまちづくり条例」も引用して答弁案を作り、戸田と事前協議して答弁した。

2011年10月～12月、サイトクが攻撃開始！戸田・門真市・生駒市が連携して撃退！

1：サイトクが生駒市・神戸市・滋賀県・大津市・高槻市・枚方市など行政に対して「現地乗り込み攻撃」を強化。「太陽光エネルギー推進しようとしている」とか「住民投票での外国籍住民の投票権を認める条例を準備している」などのネタで！

2：■ 生駒市に対して10月に在日女性市民委員のネット晒しと自宅脅迫街宣をやって、市長から謝罪要求と告訴をされた！ただ、市内での差別ビラ配布宣伝や差別街宣について何の見解も出さずに放置。つまり「住民の安全と尊厳を守る」行政として当然の責務を十全に果たしてはいない。●これは議員達が何もしようとしなからである！

3：そういった中で、「門真市での9月議会答弁」は、反サイトクの強烈な光を放った。かつ、戸田は生駒市と積極的に連携を図って、公開的に共同戦線を張ろうと動いた。これに反発したサイトクは、11月に門真市役所に嫌がらせの訪問と質問への回答要求を行ない、門真市を屈服させようとした。同時に、戸田自宅周辺への「執拗な嫌がらせ街宣攻撃」を計画した。

4：★一番のポイントは、門真市当局がサイトクの著名ゴロツキ（川東と西村）の「訪問」や「質問」という形での嫌がらせ攻撃を受けても、毅然と対決して見事に跳ね返し事！戸田からの情報と助言があったとはいえ（メールだけでなく電話や面談でも）、門真市の行政マン達がかくも見事にサイトクを跳ね返したのは立派！

また市から相談を受けた警察も、市議会での反サイトク施策の表明（＝市長の意思表明）がある以上は、行政や議員への攻撃は規制しなければならない、という姿勢で行政をバックアップしたようだ。

（★自治体議会で反サイトクの答弁をさせる意義は、こういう所にもある！）

5：◆「戸田自宅襲撃街宣」計画や「メール質問攻撃」も、「戸田議員の断固たる対決姿勢」によって粉碎された！

★これら「2つの勝利」によって、「サイトクは門真市と戸田には手が出せない」状態が作り出された！

門真市に「三行半」回答で撥ねつけられて手が出せなくなってしまう在特会！

＝門真市の12/7 回答文＝

在日特権を許さない市民の会・副会長 川東大了 様
山城之國企画 西村高 様
記

23年9月議会における答弁内容については、いかなる団体であれ、人種、民族、門地などが生まれながらにして持ち、自ら選択する余地のない点や国籍などの属性を捉まえての差別行為は、許されないものとの門真市の考え方を表明したものであります。

↑↑↑

★サイトクがグダグダ「質問」を出してきたが、門真市は「三行半」の門前払い的回答でバツサリと撥ねつけた！

2011年12月議会・本会議質問：サイトクとの対決実践で鍛えられた市の対応を示す！

◎「9月議会答弁」が（反サイトク施策の）「基礎理論の構築」だったとすれば、「12月議会答弁」は、その基礎理論に沿った実践（現実対応）によって「基礎理論の実践の仕方を体得した事の確認」だった。

市役所で来訪サイトクに対応したのが「市民部」の「地域活動課」（公聴担当）や「人権政策課」や「地域活動課」だったという事があって、議会答弁としては「市民部長」が行なう事になった。（答弁案作成は「市民部・人権政策課」）この当時は、教育委員会はまだサイトク問題にノータッチ。

＝本会議一般質問：3：差別暴力集団「在特会」らの問題について（更に認定を深める）＝のポイント、

- 1) 9月議会答弁がほかの自治体の関心も呼んだことを公表し、
- 2) 情報提供や共有を行なっていく姿勢を示し、
- 3) 生駒市女性住民への嫌がらせ問題を全国の議会で初めて取り上げ（おそらく生駒市議会では誰も取り上げていないはず！）
- 4) 門真市でそういう事件が起こった場居の対処を明らかにさせ、
- 5) 川東と西村の過去の悪行実態と今般の門真市と戸田への嫌がらせ行為を議会記録に刻みつつ、これらの妄動を手厳しく跳ね返した事を明らかにし、
- 6) そうした上で、
 - ★「市内で差別の煽動や、差別に基づく個人へのいやがらせが行われる確実な情報を得た場合には、関係機関へ連絡するなど対応していく」
 - ★「社会に重大な影響を及ぼす悪質かつ陰湿な行為である場合は、市民の人権を守る立場の市として必要に応じて毅然としたを行う」
 という毅然たる姿勢を公に示した。

※最後に述べられた「市民の人権を守る立場の市」という言葉は、その後戸田によって「市民の安全と尊厳を守る市の行政責務」という言葉に発展していき、

2012年
1月~3月

- 1月：●在特会会長の桜井が奈良地検に対して「地方公務員法違反」で戸田と生駒市長を告発！
●ザイトク凶悪犯の西村斉も、戸田を「名誉毀損罪」で刑事告訴！
2月：★「連帯ユニオン議員ネット大会」で2度目の「在特会問題特別決議」！
政府や自治体は、「門真市モデル」、「生駒市長対応」に倣ってザイトクの蛮行を批判すべし！

2012年6月議会文教委：初めて教委に質す。日の丸暴力集団、地元維新府議とザイトク

- 1：ザイトク問題を初めて「一問一答式、質問制限時間無し」の常任委員会（建設文教常任委員会）で取り上げた。
初めて教育委員会に対してもザイトク問題を問い質す（啓発する）機会になった
◆これまで教育委員会を相手にザイトク質問をしなかったのは、まずは「市長部局」から答弁を引き出して対ザイトク施策の土台を固めた方が、「全庁的な対応体制を作るには良い、と戦術的に判断したから。

- 2：◆そして、市議会の教育所管として取り上げるにふさわしい身近で重大な材料が次々に出てきた！↓

4月：「ネットと愛国 在特会の「闇」を追いかけて」出版。

■この本に、ザイトク凶悪犯荒巻靖彦が門真市出身である事が書かれていた！

■そして、この荒巻と門真市選出府議の宮本一孝（維新）が懇意だという証拠動画を戸田は2011年秋に入手していたので、2人まとめて議会で取り上げ、議事録に刻める！

5月★ごろつき荒巻・西村ら4人がロード製菓脅迫で5/10逮捕！

6/3：新宿駅南口でのザイトクが老人集団暴行。

■まさに「日の丸暴力集団の跋扈」であり、「日の丸は暴力集団の旗となっていて、これに恐怖や嫌悪を感じるのは当然！」という現物証拠になっている。⇒卒入式での日の丸・君が代強制に反対する事の正当性の証左

- 3：これに加えて、議員失職中の2010年に吹田市の中学校の3年生が、戸田HPの動画コーナーに市民派女性議員への殺人教唆書き込みをし、また自分のブログに、「在日朝鮮人を皆殺ししろ」という差別・殺人扇動もしていた問題を捉えて、「門真の子ども達の中でもあり得る事（大人にも）」、という警鐘を鳴らす機会に出来る。

- 4：◆質問準備の段階で、教委に対して「ネットと愛国」の本を渡し、またザイトクの集団暴行の動画（6/3新宿駅事件ほか）や、「ザイトク荒巻が宮本一孝府議との仲を自慢している動画」も（USBで）渡して、「事前学習」をさせた。こういう情報や映像は、教委としては初めて見るものだったはずだ。

- 5：「教委としては率直に答えられない事が多い」＝「答弁としての成果の部分は少ない」事は折り込み済みである。

★「成果」として引き出す事を意図し、実際に成功したのは、「ネットと愛国」を読んで得た認識を3点挙げよ、と求めて、

- 1) 在特会の活動内容については、そういうことが事実とすれば、人権上大きな問題がある。
2) 委員ご指摘の特定団体（＝ザイトク）が差別を助長し、人権を侵害しかねない行為を繰り返している。
3) 日常生活の中で感じる不安や不満が過激な行動に結びつく場合があり、現代社会で一部の人がネットを通して承認され、人との関係を結べるような場が在特会の広がり背景にあった。
と認識した、という趣旨の答弁をさせた。・・・★これは大成果だ！

- 6：「日の丸・君が代強制問題」については、どんなにこちらの追及論理が正しくても、教委は非論理的な正当化論を崩そうとはしない事は先刻疎知だが、それでも「在特会らの差別排外主義暴力の拡大は行政による日の丸・君が代強制が助長したと言える」現実まざまざと示す（～議員達にも聞かせる）事は意味がある。

教委が求めるように日の丸、君が代にみんな従うという人間が増えれば増えるほど、日の丸を掲げて民族差別の扇動、デマ宣伝、暴力行為を行なう輩が現に増えている、という戸田の指摘は痛烈であり、誰もこれには反論出来ない。

- 7：荒巻の事や宮本一孝府議の事について、ほとんどまともな答弁が無かったのは、ある意味で仕方が無い。

この件では、戸田による具体的に詳しい事実の指摘が「公開情報・永久保存である議事録に記載される」という事が実際の狙いである。

◆宮本一孝が府議という公職者であり、遵法・人権擁護を旨とすべき立場でありながら、違法看板・ザイトク凶悪犯との交友を持ち、門真市体育協会の会長に収まっている事に関して、教委が答弁で

・・・行政は干渉すべき立場にありませんが、各団体につきましては・・・、常に自らを律した上で、市民の皆様の公益につながる活動、よりよい地域社会づくりに寄与する活動を目指していただくべき立場にあるものと認識いたしております。

と答えたのは、「あんまり道に外れた行動を重ねたら容認できないよ、という事を匂わせたものとして考えてもいいだろう。・・・これもひとつの「成果」である。

- 8：総じて教育委員会としては、ザイトク（ハイトスピーチ勢力）の問題を「自分達の足下にもある存在」として突きつけられ（＝門真市で小中高を過ごした荒巻、ザイトクにかぶられて「朝鮮人殺せ」とネットに書き込む中学生、ザイトク暴力暴言の実態など）、非常に考えさせられたと思う。

2012年6/23尼崎市議会：ザイトクが傍聴者に差別怒号し放題！ 市民を危険にさらして平気な行政・議員の最悪な事例がこれ！

■ 目前の差別暴力被害を見捨てる「在特会を相手せず」方針の非人間性と無策無能に怒り

1：この件で戸田が一番強く怒っているのは、(ザイトクの愚劣さ、それへの怒りはもう言うまでもない)「議会という公共の場で、議員にとっては『自分の職場』で、ザイトクが老人や在日住民に差別暴力を振るっている(あの罵声怒号は「暴力」と認定すべき)のに、その被害者を助けず、知らん顔をし続けた「在特会を相手にせず」の「人権派」連中のアホウさ加減だ。

一般市民が、ましてや老人や在日女性が、自分の目の前でザイトクの差別暴力に襲われている時に、差別暴力の被害者を助けずかばわず、自分の身を挺して守ることもせず、その場の管理者に暴力加害者の排除や処罰を求める事もしないとは！犠牲になっているのは議会という公共の、民主主義の場に来た一般市民ではないか！

2：こういった非人間的な感性を正当化するのは、いわゆる「挑発に乗るな」論である。その根底にあるのは「権力・右翼の暴力に対する恐怖感を土台とした保身主義」、要は「我が身かわいさ」と「事態の混乱を活力に転化できない己の無能さの隠蔽」である。だからこそ「我が身」ならぬ「他人」に差別怒号が襲いかかっても平気だったのだ。

3：尼崎市議会で「日の丸掲揚反対」側の市民対応を仕切ったのは尼崎市議達だ。共産党の議員達はザイトク問題にほとんど無知だから、実際に「在特会を相手にせず」論で取り仕切ったのは、社民党も含めたいわゆる「市民派議員」達であるはずだ。

これらの圧倒的多数(全部?)は、「口先だけでの人権派」であり、ザイトクと対決せず、ザイトク襲撃の被害者を助けようとせず、ザイトク問題を行政の課題とせず(まさに人権施策への破壊攻撃なのに!)、ザイトクの差別暴力を批判する声明に署名する事すら嫌がる議員達である。

分かりやすく言えば「自分はザイトクに目を付けられたくない!」一心の議員達だ。



★端的に言えば「ザイトク排除の門真市の道か、ザイトク横行の尼崎市の道か」である!

4：◆実は、今回の「ザイトクが尼崎市に来る!」事件は、ザイトクを取り締まり封じる絶好の機会でもあったのだ。ザイトクにどうやってタガをはめたらいいかは、2011年9月の門真市議会答弁で示された「門真市モデル」に明確に示されている

議員が市当局に文書質問や議会質問をして、「差別を許さない人権行政」を再確認させ、ザイトクの差別怒号の動画を見せて、そういう行為が「差別と人権侵害に該当する(可能性が高い)」と認定させ、市内で差別怒号事件が起こった時の見解表明や公共施設にザイトクが来た時の対応や庁舎管理の徹底を約束させればよかったのだ。

戸田は尼崎市「市民派議員」の彼らにその事を何度も何度も情報提供し提起してきた。しかし彼ら彼女らはそれを全くやろうとしなかった!今年の1月2日には尼崎市役所にザイトクがイチャモンつけに来ていたようだから、3月議会で取り上げればよかったのに、それを全くしなかった!

日の丸問題でザイトクが押し掛ける事が分かりきった6月議会で取り上げて、行政にザイトク対策・反差別人権擁護の対策を取らせていれば、こんな酷い事件は起こらなかったのに、何もしなかった!

◆こういう「住民の人権や安全を守るためにやるべき事をやらない」無能無策さ、効果的な対処方策(門真市モデル)が明示されているのに取り組まない無能無策さが、今回の「市役所・議場内での差別怒号事件」を許してしまったのだ!

5：こういった「自分はザイトクに目を付けられたくない一心の議員達」に同調して「在特会を相手にせず」方針に賛同してしまった市民運動側にも大きな責任がある。その判断は全く間違いだったと戸田は厳しく批判する。

◆在日コリアンも含めたこれらの運動団体の中心的な人々の多くは、いろんな集会で戸田からのビラを受け取り、反ザイトク闘争の「門真市モデル」を知っていたはずだ。

それなのになぜ、尼崎の議員達をついて尼崎行政にザイトク対策を取らせようとしなかったのか?

今回ザイトクの被害に遭った人達は、「市役所・議会という、安心できるはずの場所でいきなりあんな酷い罵声暴力を受けた」、「あんな酷い被害に遭っているのに誰も助けてくれなかった!」、「市の職員も議員さん達も、みんな知らん顔だった!」事に酷く傷つけられたはずだ。

それを周りで見ていた一般市民達も職員達にも「日の丸掲揚に反対したらあんな怖い目にあってしまうんだ、誰も助けてくれないんだ」という恐怖感が強烈に刻み込まれてしまったのは間違いない。

「在特会を相手にせず」論を提唱した者達、それに従ってしまった人達は、被害や損害への責任をどう取るのか?!

6：■ザイトクの差別暴力を行政・議会に公認させ、目の前の被害者を見捨て「沈黙の容認」をするに等しい、愚劣な「在特会を相手せず方針」を2度と使わせてはならない!

戸田議員より提供 平成26年8月8日

2012年6月～12月、◆「朝鮮人殺せ！」が公然と！ヘイト拡大。 ★ザイトクに有罪・賠償判決も。12月衆院選で右翼大勝、安倍政権へ

領土排外主義高まる。12/16 衆院選挙で自民・維新・みんなの右翼改憲勢力圧勝、公明党大勝で安倍右翼政権樹立。

■ヘイトスピーチデモが増大しただけでなく、「朝鮮人殺せ！」など今までは少しははばかれていた言葉が公然と叫ばれ、プラカードに書かれるようになった。「差別殺人扇動」がネットにも街頭にも公然とあふれ出てきた！

6月：◎川東に150万円の損害賠償判決！7月：「徳島教組襲撃のおつる等19人を起訴へ！徳島地検への起訴要望運動」
◎京都朝鮮第一初級学校襲撃事件民事裁判いよいよ佳境へ。12月：◎ロート製菓事件、西村斉に3年6ヶ月の実刑判決！

2012年12月議会・建設文教委：★ザイトクに施設使わせない！ ★職員にザイトク問題研修する！暴対逆手に画期的答弁させた！

★2011年9月議会では「反ザイトクの基本姿勢の表明」をさせたが、(それから1年3ヶ月経過した後)
今度は「行政の日常業務の中での反ザイトクの具体行動」を約束させた！ 即ち、建設文教常任委員会で

★1：ザイトクには会館・公園・道路など市の公共施設を使わせない！

(使用申請があっても不許可にする)(許可を出した後でザイトクと判明したら許可を取り消す)

★2：そういう判断が出来るように、市直営でも民間委託でも、公共施設の管理運営をしている職員や団体に対し、ザイトクについての研修をやる！

という内容の答弁を引き出したからだ！

★これで門真市では、ザイトクが差別扇動デモや暴力的襲撃・威迫の出発地点や到着地点や公園を使ったり、その手の集会場所に公園や会館を使ったりする事が抑止・禁止される事になった！

もちろん、「議会答弁」の事だから、直接に「ザイトクには施設を使わせない」という言葉が使われてはいない。しかし答弁の論理と中味において、まぎれもなく「ザイトクには施設を使わせない」という事が確約されているのだ。

※ 門真市都市公園条例(2012年12月改訂)第4条(行為の許可)に

4 市長は、第1項各号に掲げる行為が次の各号のいずれにも該当しない場合に限り、第1項又は前項に規定する許可を与えることができる。

(1) 公衆の公園の利用に支障を及ぼすと認めるとき。

(2) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為等を行うことを助長するおそれがある組織の利益になると認めるとき。

とあるのだから、「差別怒号・暴力行為」常習のザイトクは、この(1)にも(2)にも該当し、

■ザイトクの集団・個人は、「市長が使用許可を与えてはいけない対象」になる！

◆戸田委員：条例案には、「集団的に又は常習的に暴力的不法行為等を行うことを助長するおそれがある組織の利益になると認めるとき。」とありますが、この認める主体は誰でしょうか。市であるはずですけども・

◎真砂土木課長：認める主体は、市であります

※★これ、実は極めて重要な事！

「認める主体は市だ」というのは、「警察ではなく、門真市が独自に判定する」という事だから、「ザイトクに甘い警察の意向に囚われない主体性」を市が持って、ザイトクに施設を使用させない、という事だ！

1：本来、差別・人権侵害・暴力行為を常習しているザイトクのような「反社会的集団」に公共施設を自由に使用させる方がおかしいのだから、「同和人権行政」を長年続けてきた自治体行政は、「ザイトクの使用を許可しない」施策を行なうべきだし、そうすることが十分に可能なはずだ。自治体行政がザイトクに公共施設を使わせなければ、ザイトクの活動はその大半を封殺する事が出来る！ その事に戸田は気が付いた！

2：そう思っている所に、12月議会で「暴対法からみの条例改訂議案」が続々出てきた。これは全国どここの議会でもこの時期に出されたのだが、戸田は「住民情報の無限定な吸い上げと法治主義の否定、警察利権の肥大化による警察管理国家への策謀＝暴対法体制断固反対！」の立場を堅持しつつ、

★「暴対関連議案を逆手に取って、ザイトクの公共施設使用禁止施策を市に答弁させる」手法を考えついた！

★しかも暴対関連議案のほとんどが、戸田所属の「建設文教委」にかけられる事を利用して、「議案への質疑」を活用して答弁させる、という効率的手段も発案した！

これは我ながら実に見事な頭脳作戦である！こんな発想と実行が出来た議員は全国で戸田ただ一人だ。

～都市建設部：公園、教育委員会：文化会館・学校施設・公民館・運動広場・テニスコート・教育センター～

3：また、「民営も含めた市の公共施設全部」の担当職員を対象とした研修を求めて確約させたのも、「戸田のぬかりの無さ」の一環である。こうしておかないとザイトク規制の実効が上がらないのだから。

2013年1月～3月、ザイトク公安結託弾圧、◆2月に親ザイトクの維新府議(宮本)が門真市長選出馬表明!★ザイトクが門真市登場図るがこれを粉碎!

1:各種の民衆運動に対してザイトクが執拗積極的に妨害・襲撃し、それを受けて公安警察が逮捕・ガサ入れ弾圧するという、「ザイトク&公安結託弾圧」が激しくなった。↓↓

●ザイトクのデッチ上げ告訴での2/13 ガサ6箇所攻撃糾弾!

前年9月の「慰安婦」集会妨害犯が「暴行を受けた」と鉄面皮にも告訴!「慰安婦」運動弾圧でも脱原発弾圧でも公安の手先はザイトク!

2:■2/24:6月にある門真市長選挙に対して、「ザイトク荒巻と仲良しの 宮本一孝府議(維新の会)が出馬表明し、

維新・緑風クラブ・宮本一孝・大本郁夫(元門真市議、守口門真商工会議所会頭、宮本の後援会長～当時)

大連合での「門真市政乗っ取り作戦」が発動され、それにザイトクも協力する構図が浮かんできた!

3:■3月:宮本への側面支援で戸田と門真市当を叩こうとしたのだろう、ザイトクが2011年11月に「門真市訪問」をやって跳ね返されて以来初めて、門真市に登場しようとして策動した

■親ザイトクの宮本への側面支援?ザイトクらが「3/6門真市役所見学」を予告宣伝!

4:★しかし、この策動は戸田の断固たる姿勢と情報戦によってあえなく挫折した!

ザイトクが、戸田が阿修羅掲示板に投稿して間もなく、「3/6門真市役所見学は中止する」とネットで公表!

★これは門真市と戸田の断固たる姿勢を土台とした勝利である!

★同時にこれは、「やっぱりザイトクと宮本府議は関係が深そう!」という事を一層浮き彫りにした。

◆こういった出来事から言える事は、(戸田がかねてから主張するように)、「自治体当局がザイトクへの批判姿勢を公表し、ザイトクの類の暴力差別怒号の常習者には施設を貸さないという事を実行すれば、ザイトクの横行はかなり抑止できる」ということだ。

◆また、「門真市以外の各地でザイトクの差別怒号デモ、暴力行為が放置されているのは、議員や住民団体が自治体行政を突き上げないからだ」ということだ。

とりわけ自治体議員、国会議員の放置責任が一番大きい。

「ザイトク来襲予告」で戸田が市に送った「3/4緊急提言!」のメール ↓↓

総務部、人権政策課ほかに通報します。(中略)

予測としては、10~20人規模で車と徒歩で市役所にやってきて、種々の嫌がらせ行動をされると思われます。その狙いは、

A:ザイトクらに毅然たる対応をする議会議会答弁を重ねてきた門真市を攻撃して自分らの力を誇示する。

B:ザイトク対応が絡んだ戸田の3/8一般質問の前に、市の答弁内容に圧力をかける(1)

C:◆園部市政への混乱持ち込みで「親ザイトク」の維新の会=宮本を市長選挙で有利にする。

の3点でしょう。

度重なる議会答弁で深めた門真市の毅然たる姿勢を絶対に緩めてはなりません。動揺やビビリの姿勢を見せれば、ザイトクにつけ込まれる事になります。「キッパリと跳ね返す」姿勢を示す事が大事です。

以下に対策の提言をしますので、至急全庁的に検討して対策を固めて下さい。

1:敷地内でのスピーカー使用やプラカード使用は厳禁する。警備職員と警察に厳しい対応を指示・依頼。(中略)

2:庁内での動画撮影は拒否する。「一般市民への迷惑」などで。撮影停止を求めてもやめない場合は、それをもって「庁舎管理者指示への違反」として強制退去を図る。(中略)「撮影は許可しない」の理論武装をして対応する。

3:行政の質問や要求をする者には、氏名・居住地(門真市民か否か)を必ず問い質して、連中の目の前で記録する。「索性を明かさない者への対応に時間は割けない」との強い姿勢で。

4:「門真市民でない者が空疎な議論をふっかける」事にも、「対応に時間は割けない」との強い姿勢で。

5:連中はそれを見越して、「門真市在住の者」を2~3人用意してやる可能性がある。(実際に門真市民でザイトク輩の者も存在する)その場合の対応も考えておく。

6:連中は「門真市市役所の見学会」と銘打って、「市民の合法的な行動」を装っている嫌がらせ・威迫をしようとする。バラバラに動き回る事もありえる。話をでっち上げるネタを作ろうとするので、話し方には注意が必要。

7:連中が行きそうに思えるのは、
・市長への面会を求めて秘書広報課・議会事務局と議員控え室
・人権政策課・市民部長のいるところ・総務部長のいるところ
・生活保護課・食堂合めて庁内全域の練り歩き(見学と称して)

8:「公開質問状への回答」は三行半的文書送付で十分。
「あの文書に書いている事が全てです」以上の対応はしない。

9:「議会答弁についての批判や質問」については、議事録のコピーを示して、「ここに書かれている通りです。それ以上でも以下でもありません」と突っぱねる。

10:全てにおいて連中とは「議論はしない。意見は聞き置く(しっかりノート採って)。」姿勢を貫く。

11:「朝鮮人殺せ!」等の怒号行動は差別・人権侵害・名誉毀損であって、許されない行為である、との市の見解は一貫させる。

12:◆市側で連中の行動に対する「記録」をしっかり行なう。特に音声録音とノート記載はしっかりやる。写真動画撮影は、騒動になった時に速やかに行なえる体制にする。

2013年3/8本会議：★「住民の安全と尊厳を守る行政責任」概念確立！ 「人権政策課の改善が急務」、サイトクと維新・市長選の関係指摘

= 6月市長選・橋下の威を借りる維新の宮本府議（門真市選出で親サイトク！）の2/24出馬表明で激戦予想、3/6サイトク来襲策動粉砕、という緊迫した状況の中で、「自民党園部市政の先進的施策の高度化を求める」ものとして質問=

1：★この3月議会で初めて、「反サイトクの人権施策の中心環として人権政策課がしっかりすべき！」という観点を明らかにして、低レベルな現状を具体的に厳しく指摘しての問題点を洗い出させ、改善への具体的道筋を示し、市当局に改善の基本線を同意させた！

=この当時の人権政策課の低レベル状態（2月末に人権政策課長に聞いたところ）=

- ▲最近の在特会らの差別デモの頻発について、何も知らない（！）差別罵倒デモなどの動画を見たことがない（！）
- ▲ヘイトスピーチデモや暴力襲撃が近年の人権問題で重大な問題であるという認識をさっぱり持っていない感じ。
- ▲この問題について、人権政策課として資料・情報を集めて知る事を全くしていない！
- ▲「自治基本条例」への市民意見に現れてきた「門真市民の中での民族差別意見の露呈」について何も知らない（！）
- 12月議会の建設文教委での「サイトクへの施設使用許可の問題の質疑（戸田）・答弁」について全く知らない（！）

2：当局・人権政策課としては「急に重たい課題を投げられた」感じだったであろうが、2013年度はその方向で進み、9月議会での戸田追及でそうなる事が確定された！

※市当局としては、市民部・人権政策課も、総務部・人事課等での答弁調整が必要だったと思う。

3：「朝鮮人殺せ！」の怒号とプラカードが常態化しているヘイトデモの最近の実態を議会で取り上げてた。

4：◆門真市民の中にもサイトクにかぶれた人達、サイトクが流すデマを信じ込んでいる住民がいる事を、実例を挙げて警鐘を鳴らした。/「自治基本条例」への市民意見の中で、「在日外国人には日本国籍住民と同じ住民権利を与えるな！」、等の差別意見/「生活保護で在日外国人が特権的に優遇されている」、「在日外国人に生活保護を与えるのは違法行為だ！」、「外国人に生活保護を与えるのは日本だけ！」等のデマ宣伝が広がっている。/・門真市住民の大学生などがサイトク集団に入ってデモ行動をしている。

5：★宮本一孝府議の非行行状、サイトク凶悪犯荒巻靖彦の犯罪実態、そして両者が悪意である実態を、初めて本会議議事録に残した！（※この部分については「再質問を借りた指摘」で行なったので、「答弁」は無い）

2013年3月～8月、■女子中生「鶴橋大虐殺を」とアジ！ ☆反ヘイト行動活発、のりこえ発足、戸田の宮井提訴など

1：■ 3/23にサイトク女の娘の中学生が鶴橋でのヘイトデモに参加して「南京大虐殺ではなく、鶴橋大虐殺をやらないといけない」と叫んだ！ この動画が韓国でも報道され、大きな衝撃を呼んだ！

女子中生がサイトクにかぶれてこんな事を街頭で叫ぶ神経！それを嬉々として動画公開するサイトクの神経！

2：サイトク・反サイトク双方に逮捕者が増えた。在特会会長の桜井誠も初逮捕。

3：★4月にサイトクおつる=中曾千鶴子がやっと起訴された。（徳島県教組の頑張りによって）

★サイトク凶悪犯の荒巻靖彦が刑務所入り（5月）、西村育は収監後保釈されてサイトク活動を続けたが、11/22にやっと刑務所入りした。

4：6月の門真市長選を巡って、親サイトクの宮本一孝が「所得税迂回寄付」をバクロされて4/10に「出馬断念表明」！

5：★戸田が動画「維新府議・宮本一孝&サイトク『黒書』」を6月に作ってアップ！

6：「反サイトク行動」が盛り上がる。★大阪で「7/14仲良くしようぜパレード」に600人。

★東京では「カウンター行動」盛り上がりで7/7ヘイトデモを中止に追い込んだ！

★9月、著名人が名を連ね「のりこえねっと」=「ヘイトスピーチとレイシズムを乗り越える国際ネットワーク」設立

7：★7/12、戸田はサイトク宮井将（まさる）に民事賠償請求訴訟を提訴！（2010年4/7戸田襲撃・眼鏡窃盗の制裁で）

8：サイトクも進めてきた「はだしのゲン」排撃運動が8/16報道で明らかになり、全国的反対が起こって、松江市は「はだしのゲン」を図書館本棚に戻した。（⇒しかし今度は全右翼・右派メディア挙げての「ゲン」排除運動に）

2013年6月議会・文教委でサイトクと宮本府議・吉水議員・体協の関係をみっちり

★「サイトク荒巻の実態と維新宮本府議の友好関係」、「宮本府議と門真市の緑風クラブ・吉水議員や体育協会の不適切な癒着関係」等を、「質問時間制限無し・一問一答式の所管事項質問」でじっくり公表し、議員・職員・市民への啓発とした。今回は「荒巻の刑務所収監」という事実も含めて、より深く掘り下げて質した。

◆これは宮本が4/10に出馬断念表明をしたといえ、「6/9公示の市長選に維新関係の出馬がゼロではない」という状況を見据えての「維新対策」でもあり、同時に「今後とも維新が門真市内で出馬したら、サイトクと宮本府議の友好関係を追及するぞ！」という「維新・宮本封じ作戦」としてもなされたもの。⇒維新は門真市長選に不出馬で園部3選に。

2013年9月議会：文教委と本会議：★反ザイトク施策を集大成！ ★人権政策課がザイトク問題を主管、★戸田製作動画で全部署研修！

★1：日本で唯一「ザイトクに厳しい人権行政」をやっている門真市の対策を集大成させるべく、質問の仕方を組み立てた。「2年がかりの集大成」だ。

★2：「反ザイトク人権施策」の主管を「市民部・人権政策課」とするという、「行政組織としての責任の所在」を確立させた！人権政策課が反ザイトクの中心環となって情報収集し、総務部人事課（職員研修）や教育委員会（学校教育・社会人教育等）にも、公共施設管理の市部門や民間団体にも、全ての部署に情報提供と指導的責任を負う事になった！これはもの凄く画期的な事である。

従来の「ルーティンワーク的啓発部署」から「躍動的な人権政策発信部署」になる！

※全国の自治体行政は、この事を特に参考にして欲しい。

★3：「ザイトクには施設を使わせない」ための職員研修を、戸田作成のDVD使って実施していく事を約束させた！※戸田特製の「ザイトク」問題研修用動画（7分41秒・音楽付き）

（ザイトク問題では、今の所、他に適切な動画教材が全く無い、という実状だから）

またザイトク問題について、施設管理の民間職員も含めた全部署の職員に、議会答弁や各種文書資料も使って、毎年実施していく事（その方向）を約束させた！（今までの議会答弁がどう実践されたかの検証もさせて）

◆4：初めて「常任委員会での所管事項質問」と「本会議での一般質問」の両方においてザイトク問題を質問して、教育委員会と市長部局を総合した施策としての認識を職員達に持たせるようにした。

◆5：「ザイトクは身近な脅威である」事を、

- 1) 女子中生が「鶴橋大虐殺を！」と叫ぶような社会情勢になってしまった
門真の中学生がヘイトスピーチに参加していることが判明したらどうする？
- 2) そういうザイトクかぶれの青少年や大人は門真市にも存在するという実例
そういう住民が行政にクレームつけて来たらどう対応するのか？
- 3) ザイトク荒巻は門真市出身で、門真市選出の宮本府議と交友関係を持つ
- 4) 「はだしのゲン」排撃という、とんでもない事にザイトクが囃んでいた
門真市に対してもそういう攻撃は起こり得る。その時どう対応するのか？

という指摘を通じて「自分達が直接向き合う事」として考えさせた。

これはまた、ザイトク問題にうとい（共産党も含めた）門真市の議員達に対する啓発でもある。

★7：文教委質問では、「はだしのゲン問題」が今後は右翼全体と政府文科省総がかりでの攻撃になる事をしっかり予見しつつ、「今の段階なら『ゲン』は良書だから守るべし」という教委職員（先生あがり）の「素直な回答」が得られる！」と的確に判断して質問し、「門真市でははだしのゲン排撃はしない」と議会答弁をさせた。

★これは今後の文科省・府教委の圧力に対して相当強固な抵抗線になる！

★8：「はだしのゲン排撃」にしろ何にしろ、「ザイトクなどからのクレーム攻撃と右翼議員の連携」によって行政が押し切られる例が沢山あるが、門真ではそうはさせない＝「親ザイトクの宮本府議と親しい緑風クラブ議員（親学）などの日本会議系運動にも親近感を持つ）に策動させない」という仕掛けをバッチリ作った。

それが、ひとつには議会質問で何度も繰り返してきた「ザイトク荒巻と宮本府議との関係」であり、もうひとつは、この9月文教委で「執拗なクレームがあった場合は、議員にもその実状を報告するべき」と認めさせた事である。

★これつまり、「右翼的クレームは戸田に筒抜けになって厳しく公開的に反撃される」（＝だから門真市行政も心強く右翼クレームに対応出来る）という事だ！（笑）

★9：緑風クラブの吉水議員が4/1施行の「議員政治倫理条例」に違反して体育協会の副会長をしていて8月末にやっど辞任したが、実は今も「ソフトボール連盟の会長」を今も続けて条例違反を重ねている、という「爆弾質問」を行なった！

これは「親ザイトクの維新と門真の緑風クラブ・体育協会との黒い癒着」をバクロ批判するものである。

・・・これが12月議会での吉水議員への議長警告読み上げと問責決議につながり、

◆また、門真共産党が「吉水議員は議員政治倫理条例違反ではない！、問責決議にも反対！」、と主張するいう、「共産党と緑風クラブとの不純交友関係」をバクロする事にもつながった。

◆10：この議会から戸田は初めて「ザイトク」という戸田の造語を「ヘイトスピーチ勢力」とも呼ぶ事にした。（昨今ようやくテレビ新聞でも取り上げられるようになり、「ヘイトスピーチ勢力」という呼び方で一般には知られるようになったため）

戸田議員より提供 平成26年8月8日

2013年10月～2014年2/21門真市研修会まで

★10/7京都地裁判決：朝鮮学校襲撃ヘイトのザイトクに1200万円超の賠償判決！

日本初の画期的な（通称）「ヘイトスピーチ賠償判決」だ！

ほか、いろいろ

★10/7 京都地裁：ザイトクの京都朝鮮学校襲撃・ヘイトデモに対して人種差別と断罪、1200万円超の賠償命令判決！

全国に大きな波及！ ザイトク=ヘイトスピーチ（ヘイトクライム）問題に、かつてなく広汎な人々を巻き合わせた。・・・しかし、安倍政権や自治体行政・各首長らには、まだ変化無し。

■ザイトク宮井を提訴した戸田裁判の大阪地裁裁判長は、「慰謝料は無し。眼鏡代金+金利のみ賠償」！

★戸田は控訴しつつ、判決認定分すら払わない宮井に1/7 自宅差押え訪問やハガキ攻撃をかけ、賠償金ゲット！

■大阪府の中原教育長とザイトク・維新が結託した「11/16 中原教育長講演会」が企画され、宣伝されるという大事件発生！ 10月上旬に府内市町村の議会事務局に宣伝ビラが郵送され、各議会事務局や行政は「なかば公的行事のように」扱った！

★だが戸田が「11/16 中原教育長講演会粉碎！」で単独決起し、大宣伝！取り止めに追い込んだ！

橋下の早稲田同窓生の渡米弁護士にして「君が代口元監視」の中原府教育長が、悪名高き「ザイトクおつる」（中曾千鶴子=ヘイト行動常連、徳島県教組事務所襲撃一味で刑事被告人！）の司会で「教育を語る」11/16 講演会を実施・・・という、天人共に絶対に許せない計画があって、それがザイトクら極右勢力と維新の会結託の重大イベントとして、早くから準備宣伝されてきていたのだ。

主催者は「NPO法人」を謳う「教育再生地方議員百人と市民の会（百人の会）」という団体だが

- ・理事長が、維新の会の大阪市議：辻 淳子、
- ・事務局長が、元「在得会関西支部長」で、小学校校長脅迫・車庫飛ばし・保険金詐欺で3回も逮捕されている右翼ゴロの増木重夫、
- ・理事にヘイト行動常連、徳島県教組事務所襲撃一味で刑事被告人の「おつる」こと中曾千鶴子が入っている、

という、まさに「ザイトクと維新の会の結託をあからさまに晒している」とんでもない団体だ。

・・・★ところが、ザイトク・維新・中原の側が、戸田の決意に恐れおののいて、中原や主催団体にまだ文書ひとつ送られていないのに、11/8(金)になって急遽、「11/16 中原講演会の中止」を決めて発表した！

戸田の約40年に及ぶ活動体験の中で、「ビラやHPで批判宣伝しただけで勝利した」のはさすがに初めての体験だ！

これは楽しいし目出度い！

■安倍ファシズム政権の下、「嫌韓嫌中」を売り物にしたメディアが大繁殖！

2月都知事選では極右の田母神が61万票も獲得した！

投票20代の1/4が田母神に入れた！

ちっぽけな低所得都市・自民党市長の門真市で出来た事が、なぜ他の自治体で出来ないのか？

★ヘイト行動を弾劾規制する、第2第3の門真市を作れ！



門真亦議の戸田からの訴えです！

橋下徹の早大同級生・中原徹は民間登用校長で「君が代斉唱口元チェックして府の教育長に出世し、さらに「口元監視」の教育長指示を出した右翼男だが

許さんぞ！教育長が極右と公然とつるむなんて！ 11/16中原講演を中止に追い込もう！

数々のヘイト行動参加で有名！朝鮮学校襲撃ヘイトを絶賛！

徳島県教組襲撃参加で刑事起訴されてる刑事被告人！

「教科書つる会」古参会員、元在特会関西支部長、統一協会

と関係、小学校長脅迫・卓球飛ばし・保険金詐欺で3回も逮捕！

→サイトウ「おつる」(中曾千鶴子)が総会司会!

→右翼ゴロ増木重夫が主催者事務局!

そんなヤツラの企画で中原教育長が「御講演」とは!

NPO 法人教育再生地方議員百人と市民の会

中原徹先生緊急御講演

元米国弁護士 / 元和泉高等学校校長 / 現大阪府教育長

日時 平成25年 11月16日(土) 午後 2:00

(1:50開場、4:15;終了予定)

会場 **サムティフェイム新大阪** ホール4

大阪市淀川区西中島6-5-3 TEL.06-6885-9000

御堂筋線西中島南方駅北北西へ徒歩4分、JR新大阪西南西7分

第1部 中原先生、教育を語る

■ 日本の将来、子供たちに何を教える、どう教える

第2部 中原先生に御質問

■ 大阪の教育はどうなるのだろう……?

※ ① 御質問はFAX、メール、TEL等で、事前に事務局

にお寄せください。(締め切り:11月12日)

② 御質問の回答は、中原先生個人の見解です。

進行 弊会理事長 辻 淳子 大阪市会議員&うるさいママたち

総合司会 弊会理事 中曾千鶴子

横浜生まれの中原先生が、大阪は和泉高校に民間人校長として赴任されるため、弁護士として活動しているロスアンジェルスから帰国されたのは3年半前。そして今春より大阪府教育長。橋下元知事、松井環知事の教育政策を具現化する責任者になられたわけです。先日先生にご挨拶にお伺いしました。「何を話そうか。」「家庭教育の重要性を!」「私もそれが一番だと思う」。また、先生のお言葉で強く残っているのは、「両論併記も大事だが、それはある程度の判断がつく年になってから。小さいうちはあくまで原理原則を教えないといけない。」後は当日会場で拝聴しましょう。

◎ 運営費として、議員 2000 円、一般 1000 円ご協力下さい

◎ 懇親会 『魚アホ一代』中原先生も御参加。徒歩20秒 4500 円

床、辞履、団体
感動を保障!

NPO 法人教育再生地方議員百人と市民の会

理事長 (大阪市会議員) 辻 淳子

(事務局) 増木 重夫

枚田市古江合 2-10-1-13 TEL.090-3710-4815 FAX.06-6835-0974

参加票 (切り取り; 御記入の上、当日御持参ください、予約不要)

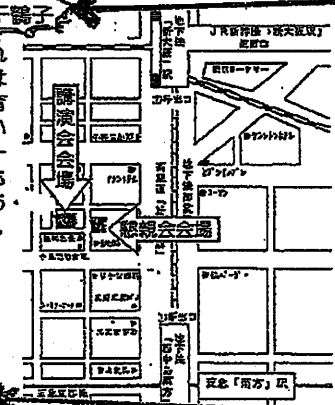
お名前 _____ お電話番号 _____ FAX _____

ご住所 _____ メールアドレス _____

原でこの集会を知りましたでしょうか

* 議員におかれましては お名前をいただきたく存じます (お名前以外記入不要) 百人の会会員; お名前以外記入不要

★このピラが十月初旬に門真市議会事務局に郵送されて来ました！戸田がたまたま問題に気づいてビックリ！
おそろしく府内市町村の議会や行政全てに郵送されているはず！何も問題と思わず議員などに示しているはず！



←
実際のピラは
の大きさ
A4版です

「ネット右翼」にはおもしろくない

大衆メディアにまで拡大する 新たな「嫌韓中」の潮流

安田浩一

このごろ、いわゆる保守系の雑誌ではない、大衆向けの週刊誌に中国や韓国への敵意を煽り立てるような見出しが頻るようになった。ネットを中心とした排外主義の流行が、一般社会にまで蔓延したということだろうか。

こうした現象や社会の風潮について、在特会の関係者に迫る徹底的な取材により「ネットと愛国 在特会の「闇」を追いかけた」(講談社)を著した安田浩一氏に聞いた。

(産 徳成・井上 穂)

嫌韓中記事の流行が

メディア全体を騒がせている

電車に乗って、まっすぐ走り出すのが、週刊誌の中身りかたです。毎週のように中国と韓国を叩くことにより耳目を集めています。もちろん、中国も韓国も、叩くこと自体は一向に増えません。私自身、さまざまな問題にアプローチしてきたなかで、中国や韓国について疑問を感じたことがあります。だから、正当な批判はいくらでもすればいいと思います。

ただし、昔の仲間や週刊誌記者、編集者などに話を聞くと、正直なところ、この種の記事には作り手もうんざりしている部分があるようです。とくに、やめられない。なぜなら、こうした記事は、そこそこの需要があるからです。もつとも売れるといつても、せいぜい下巻を盛り止めてやや上方修正でき、赤字を出さないですむ、という程度のことで、これら記事は、おぼろげにコストをかけたに過ぎないといえます。言ってしまうと、ネットや新聞で材料を拾って

きて、そこにガキガキで専門家の発言を付けるだけで、なんとも記事としての体裁が整ってしまうのです。大抵なのはタイトルであって、中身が伴っていないこともタイトルで煽りたければ、一定数の読者がつきます。この手軽さから、いまの週刊誌は逃れられずにいます。

ここにはいまのメディア全体が抱える事情があります。雑誌が売れない時代、コストも手間もかからない記事は魅力的です。さらに、一定の需要、つまり読者が雑誌に存在している。週刊誌は、時代の空気や人々の空気を読むのが仕事だから、もしも私がいま、週刊誌の編集者か記者をしていたら、同じような記事を作っていたかもしれないとも思います。

私が危惧しているのは、これによって、嫌韓、とか、反中、といわれる気分が盛り上がるだけでなく、メディア自身にとって命取りとなるのではないかということです。電話一本で専門家からコメントをとるだけなら、はつきり書いて学生でもできてしまう。そんな記事を作つていけば、取捨力が落ちるのは確実です。

私は、週刊誌をはじめとした雑誌メディアがもつとも期待されているのは、スキヤンダルだと思っています。それがすべてだと言ってもいい。もちろんシモンタをひとつこくせい回せということではなく、大手マスコミが捉えきれないことを、間隙を突いて報道していくことに意味があるということです。芸能だろうが政治ネタだろうが社会問題だろうが、スキヤンダルを徹底的に追及することが、週刊誌の持ち味だと思っています。

お金をかけてきちんと取材する、その基本を、雑誌メディアはこれからさらに失っていくのではないかと、足を倒して批判せず、人手をかけず、お金もかけずに、読者を集める術を憶えてしまったということだから、こういう傾向はしばらく続いてしまうのではないのでしょうか。そんな記事があつてはならないとは言わないけれど、安易なやり方に依存している現状は問題視されるべきです。

なにより、読者からも必ず飽きられるでしょう。そのとき、どうするのが、また別の敵を見つけ出して、叩けばいいと

思っているのでしょうか。

社会に蔓延する「在特会的空気」

私は「ネットと愛国」という本で、「在特会」(在日特権を許さない市民の会)という団体と、そこに集まる人々について書きました。しかし、いまでは在特会そのものより、在特会的な空気が蔓延しつつあることに危険性を感じています。

たとえば私に対して、ネットやその他で批判をしてくる人がいますが、それは在特会の人間とは限りません。いまでは在特会以外が、むしろ街頭など言つてもいい。在特会には半ば嫌悪を示しながら、それでもいまの嫌韓的な空気を強分に感じ込んで、発散したがつていられる層が確実にいます。そんな人々にとって、私は非常に目障りな存在なようで、同じような内容や言葉の非難が絶えません。

もちろん、名前を出して発言している以上、正当な批判でも、ただの中傷でも、具体的事実に基づいたものであれば、されて当然だと考えています。私は完璧な



人間ではないし、朝鮮問題の専門家でもない。あら捜しすればいくらでもボロが出るはず。指摘されることで、私自身が学ぶことだってある。むしろ、取材が寛容に尽きるというものです。

しかし、いまあるのは、そうではありません。嫌韓に異を唱えたら、それだけでパッシングの対象になります。「韓国を擁護しているのか」「おまえの悪意は親韓的だ」、あるいは「在特会を許せないけれど、在特会を生み出した原因が韓国や中国にあることを理解しているのか」という論調です。在日コリアンや韓国・中国の存在そのものを否定するところから、すべての議論が始まっているので、絶対に噛み合うわけがありません。

彼らにあるのは、「良い在日」と「悪い在日」という発想のみで、日本に逆らわず、日本の決まりごとに従い、日本国のもの考え方をし、そして韓国を否定するような在日であれば受け容れられ、だから自分たちは差別主義者ではないのだと主張します。まったく的外れで、ナンパリしてしまいます。

この国を否定するとかしないとかではなく、現実にはいる人々の存在を肯定するところからでないと、話が始められないし、批判だといって民族差別をすることは許されるべきないとは、言うまでもありません。

ネットから生じた新しい差別の形

在特会などによる新大久保でのデモが加熱して騒動になったことがきっかけで、昨年ごろから、ヘイトスピーチについて新聞など大手メディアも盛んに報道するようになりました。ただし彼らは嫌韓や嫌中を、最近の風潮であるかのように扱っています。そこに、私は若手の違和感を覚えています。これらは何もないところから突然湧いたものではないからです。

いまに至るまでには、日本社会が、私も含めてずっと加担してきたし、そういう社会で私たちは生きてきました。街頭で公然と「死ぬ」とか「殺せ」と叫ぶとはなくとも、それと似たような言動は、

いくらでもありました。在日コリアンに対する嫌悪、差別、偏見といったものは決して新しいものではなく、むしろ古いものです。

言われる側にとっても「国に帰れ」という言葉は、侮蔑の用語として古典的なものです。関東大震災において、数日に多くの朝鮮人が殺されているわけですが、そんな差別と偏見をずっとひきずりながら、形勢だけがリニアールを重なり、また、いまの形で表面に現れているだけのことです。

一方、在特会などを取柄にして感じるのは、新しい差別の仕方でもいうべきものが生まれているという事です。

従来の差別を上から「マスコミ差別」とすれば、下から見上げる差別と言えはいいかもしれませんが、典型的なのが「メディアが在日に乗っ取られている」「学校教育が左翼と在日に支配されている」というもの。支配と被支配の関係で、自分が被害に属しているという意識や感覚が、彼らの間で広がっているのです。

つまり、自分たちを被害者であると信

置つけて、それを前提に、自分たちの行動は差別ではなくレジスタンスだと定義する。たとえば私が取材しても、取材行為そのものが、在日のコミットした業界による攻撃だと捉えて身構えます。

在日コリアンは福祉に多大乗りし、日本に寄生している。この「在日特権」と呼ばれる概念自体は「ヨーロッパの移民に対する「フリーライド論」にも似ています。しかし、そうして在日を敵んだり排斥を訴えたりする自分たちのことを、差別者ではなく、実は被害者であるという論理はこれまでになかったものです。

一部の人たちが発見したこの論理を、在特会代表の萩井隆氏はわかりやすい言葉で表現し、ネットで、動画で、街頭で訴えかけた。街頭では誰もろくに聞かずにいはいないけれど、動画サイトの影響力は大きく、効果的だった。そして、個別分断的に行なわれていた議論を、大衆的なところに引き上げた。これは、ある意味で萩井氏の能力の一つだったと思います。

在特会などを取柄にして、あなたにとっての「敵」は誰なのかと聞くと、当然ながら「在日」「韓国」といった答えが返ってくる。しかし、それに続く「敵」を聞けば、「マスコミ」とか「公務員」「教師」を挙げる者が多い。いずれも発言の回数を誇っており、しかも安定したイメージがあります。実際はとんでもない誤解なんです。それらの業界は彼らにとって特権階級であり権力であって、自分たちを抑圧する存在だと思込んでいるわけです。

そうなる、彼らはいったい誰を憎んでいるのか。在日なのかマスコミなのか公務員なのか。「はつきりしろ」と言っただけでやりたくなることもありますが、実は彼らが本当に憎み願っているのは「戦後民主主義」といふ時間なのではないかと、最近も考えています。実際、一時はネット右翼のアイコンともなった漫画「嫌韓派」の作者・山野軍論氏が次に注目したのは世代間格差の問題でした。戦後の世代間格差が半端じゃなくひどいのは事実で、多くの人がシンパシーを感じたのは、

ある意味、当然のことです。

そうしたなか、戦後民主主義といわれるものなかに置かれてきた「平和」とか「人権」などは、しよせん総選挙、総選挙だつたという思いを持つ人たちがいます。そんな人たちがとらって、ネット上で「人権を守ろう」とか「平和は大切だ」と言つてもかまいません。それはいわば、良い子の言説であり、彼らのイメージする特権階級「権力」の言葉です。すらあります。ネットでウケる言葉はそれと裏返るもので、勢いがあり、どこか嫌がらなくて、問題提起を含んでいて、しかも逆説的な物言いはほど、注目されます。

それは結局、刺激と昂揚を求めているだけではないのか。だから、在特会も、それ以外のネット右翼も、外国人を国内から排除しろと呼んではいても、それをどうやったら実現できるのか、実現できたら世の中がどう良くなるのか、という具体的な展望はまったくありません。とりあえず、いまの自分を、社会を苦しめているのは何か、わかりやすい敵を認定し、それを攻撃することに意味があると

考え、それが隣国に対する、あるいは戦後民主主義という時間に対する最大の抵抗であると信じている、ということ。

差別を構築して楽しむ風潮

一方で、ネット右翼は若者たちだけのものではない、ということも強調しておきたいところです。実際にアモの現場へ足を運んで、そこに参加している人たちに接すると、過激な過中は、だいたい四十代以上であることが多いのです。

以前、ツイッターで差別的なコメントを書き連ねたうえ「虐殺1」などと物議を醸すまで書き込む、ある人物が話題になりました。私自身、二十代か三十代だろうと思いつつ、実際にその人物に当たってみると、五十代後半の男性でした。自宅を訪ねて話を聞こうと連絡すると、「ハッキングで住所を割り出されてしまった」と被害妄想をツイート。もちろん私にハッキングの技術などありません。

彼のような人々は、ある程度の社会経験や知識や思考力を年齢相応に持っている

ただのだけれど、三十歳、四十歳を過ぎてから、ネットによって「真実」を発見しちゃった、という人々です。もともと若い頃から差別的な感情を内包してはいたけれど、ネットによって自分の理論をさらに補強できたと思ってしまうのです。そして、そういう単純な大人が増えていくという気がします。

これはネットリテラシーの欠如が原因の一つではないかと思えます。普通であれば、ネットの情報についていちおう検証してみようと思はずし、くだらない情報に釣られたら恥かしいという警戒心もある。他方、そうすることを知らない人々がいて、彼らはネットの過剰な情報を「真実」と言ってしまう。また、過去の人生で損をしてきたという思いと、社会の建前を信じて騙されてきたという被害意識や恨みの感情も引き金になります。

ちょっと前までは「在特会」というキーワードを使えば、現在の日本の差別構造が説明できるかのようにみな感じていました。自戒も含めて言うのですが、

そのような印象を醸成を与えてしまったのは事実です。しかし在特会というのは私たちの社会の未成熟な部分から必然的に発生してきたもので、彼らを批判する人々はそれを心に留めておく必要があるのではないのでしょうか。

彼らの言説の広がりには、すでに制止めが利かなくなっているのかもしれない。一月十九日、埼玉県・西川口で行われた「行動保守」を自称する人々のデモでは、日章旗を掲げるだけでなく、ナチスの鐵十字（アムンクロイツ）の旗を背中に掲げつけたりもしていました。そもそも主催者がナチスを肯定しているし、在日だけでなく、全ての外国人が日本から出て行くべきであると叫ぶ、国際結婚は血が汚れるという主張まで展開しています。

ここまでくると政治的な文脈では捉えられません。そもそも、ナチスの旗を背負った人が、どこまで国家社会主義を理解しているのかすら不明です。おそろく遊び半分でしょうが、そうであっても、そうした潮が、いかに日本社会に対する

抵抗の象徴として持ち出されている事実があります。

しかも、最近の堺とスピードチヂミを見ていると、単に街頭で騒ぎ立てることが楽しいというだけの人々が増えているのを感じます。彼らが「出て行け」「叩き出せ」とか「死ぬ」「殺せ」という言葉を叫ぶ際、怒りや憎しみの形相ではなく、へらへらと笑っているのです。しかも、自らの醜態を察し気が付いていない。すでに、社会に問いかけたり、訴えかけたりすること自体を放棄しているのです。言ってみれば、差別が構築として受け容れられている状態です。

イトスピーチを否定する難しさがある

ところで、昨年あたりから、在特会に初期から参加している主要なメンバーの顔が相次いでいるという事実があります。イトスピーチの下劣さや、先述したような思想の欠如に、さすがに嫌気がさして、辞めていく人がいるわけです。まだ取材中で結論が出ていませんが、そ

れにより在特会が原理主義的に純化している傾向が見受けられるのは確かです。これは、重ねてしまうのは適切でないけれど、左翼で連合赤軍事件があったように、タコソボの論理にはまっていってしまう感じに近いかもしれません。

一月二十二日には、神戸朝鮮学校に金原博を持つ男が侵入する事件が起きました。負傷者が出て、犯人が逮捕されています。まさにヘイトクライムです。これが「純化」の結果とは、現時点で断定できませんが、同種の事件が、今後も続くことが予想されます。

そして、いまネットで「韓国」を検索すれば「反日」からみるページばかりがヒットします。ちゃんと文献に当たる前に、とりあえずネット検索ということでは、若者に限らず、いまでも誰だつてすることですが、これでは人々が韓国に否定的な印象をもつて当然でしょう。

以前に大学で講演をした際、学生はみんな真面目に話を聞いてくれましたし、在特会の動画を見てもらうと、「公然と差別を口にして騒ぎ立てるなんて許せな

い」「在日の人たちは差別を受けて気の毒だ」などの反応がありますが、そのあと「在特会も悪いけど、韓国人も怖いでしょう」といつた掛け合いをされること、しばしばありました。ネットで得られる否定的な情報、容易に受け容れられてしまっているということ。

そうなれば、もうネット右翼だけの問題ではありません。だから私たちは、ヘイトスピーチを行なう人々を、明確に否定する必要があるのです。

彼らのしていることは、程度が低い悪癖や罵り合いとは違います。その発想は、非除された人間の心情、生活の営み、歴史をすべて無視し、その属性を否定している。どんなに努力しても変えられないことに対して、死ねと殺せと言っている。これは決して見過ごすにはいきません。

だからヘイトスピーチは犯罪であり、被害者を装っても、抵抗運動をしていると主張してみせても、現実は被害者を置ける加害者である。そのことがきちんと言えるかどうかを、いまこの社会が問われているのだと思います。



(S)後 (S)後
 (「ザイトク」とは民族差別暴力を得意がる在特会など卑劣ファシストの総称。「ヘイト」勢力のこと)

この7月、反ザイトク運動が大阪でバージョンアップ！ 2014年7/1発行

★7/1：辛淑玉さん、武委員長、戸田による「排外主義と闘う！シンポ」

★7/25：門真市が前田朗先生を招いて反ヘイトの全部署職員研修！

★7/26：門真市文化会館で前田朗先生を招いて反ヘイトの市民講演会！

★7/26(土) 2時～5時 門真市役所ウラの文化会館ホールにて 「ザイトクに公共施設を使わせない論理と倫理 ～7/26前田朗先生講演集会 イ門真」

☆反ヘイト最高峰の研究者・行動家の前田朗（あきら）教授
 (東京造形大学教授・法学者・国際的研究と活動多数、在日朝鮮人人権
 セミナー事務局長等) が、ついに門真市に来たる！

☆ザイトクの横行を憂う市民・活動家・自治体議員・行政マンを対象に
 講演と質疑応答を行ないます！ この絶好の機会をお見逃しなく！



◎日 時：7/26(土) 2時開始～5時終了 (開場・受付開始1:45～閉会・片づけ4:45)

◎会 場：門真市立文化会館1階ホール (100人規模)

住所：門真市中町2-3 (門真市役所本館ウラ手) (駐車場あり)

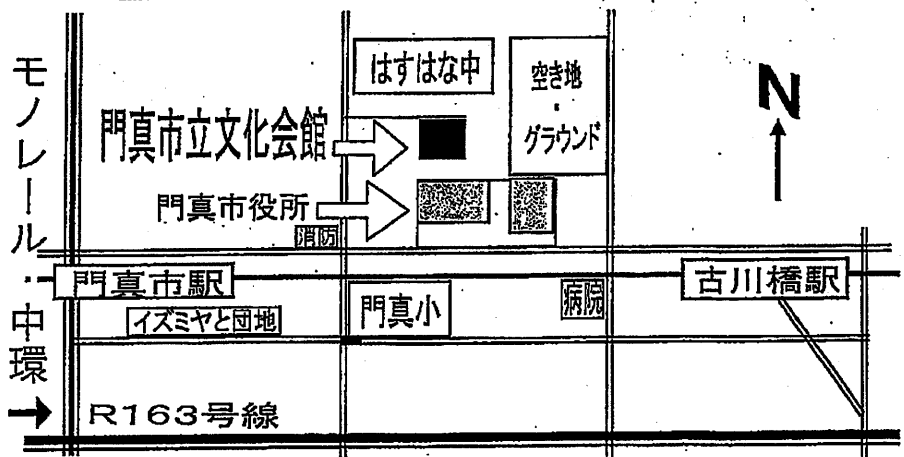
電話：06-6901-3300

京阪電車の門真市駅からも古川橋駅からも徒歩6分

◎資料代：500円

◆この講演会は、
 「事前申し込み制」です！
 参加ご希望の方は者は必ず、
 戸田へのメールかFAXで、
 1) 氏名
 2) 所属や肩書、職業など
 3) 電話番号
 4) 住所もしくは連絡先
 を明記して申し込んで下さい。
 (アドレス・FAX番号は下記参照)
 ※団体やグループの方は、代表者
 のみ上記4項目を届け出て「他
 ○人」でも結構です。
 ご面倒とは思いますが、「真剣に
 反ザイトクの行政実施を求める人
 達」の集会にしたいので、ご協
 力お願いします。

門真市立文化会館案内図



戸田議員より提供 平成26年8月8日

大阪府門真(かどま)市議：戸田ひさよし 「革命21」所属。議会では「無所属」
 連帯ユニオン近畿地本顧問・連帯ユニオン議員ネット代表
 事務所：大阪府門真市新橋町12-18 三松マンション207 TEL：06-6907-7727 FAX：06-6907-7730
 アドレス：toda-jimu1@hige-toda.com HP：<http://www.hige-toda.com/>

ザイトク川東に揺さぶられた門真市を戸田が鍛え直し、6月議会の追求質問で反省総括させ、より前進させた!

【6月議会：戸田の追求質問と答弁】

【6/16 文教常任委員会】(重要部分の一部のみ抜粋紹介)

戸田：「反ザイトク先進施策」を2月の公開研修で誇った門真市が、4月にザイトク川東主催でルミエールホールでの「5/11ザイトクによる朝鮮人差別宣伝集会」の使用許可を出してしまい、スツクモンダして、やっと5/2に使用許可を取り消したという、実にみっともない、かつ在日コリアンや門真市民の尊厳を傷つけてしまうという事件があった。

許可取り消しの過程を経て、「雨降って地固まる」となって一安心出来たが、この経過は痛苦的な反省の姿勢で検証し、今後役に立てていかなければならない。そういう観点から質問を行なう。

戸田：こういう事は、門真市と門真市民の名誉や「住民の尊厳」を著しく傷つけるものではないか?

教委：公表された内容は人の尊厳が損なわれるものであり、このようなことが行われてはいけなかつたからこそ、許可の取消しに向けて、指定管理者などと調整を図るに至りました。

教委：市民の人権を守る立場として、市民の安全と尊厳を守ることは行政の責務であると認識しております。

教委：このような内容の申請が実際にあった場合の想定が十分であったとは言いがたい、この点につきましては検討が不足していたことを反省しております。今後は、状況に応じて一度保留し、十分な検討を行うよう取扱いを見直しております。

戸田：ヘイトスピーチ・ヘイトクライム勢力と公共施設運営の関係で7/25に全部署の職員を対象にした「職員研修」が企画された、と聞かされたが、これはどういうものか?

教委：7月25日午後、定員120人の門真市保健福祉センター多目的ホールにおいて2回にわたり、ヘイトスピーチに関する基礎知識や自治体として留意すべきことなどを習得することを目的として、人権女性政策課が企画し人事課が主催するもので、施設の管理運営を日常的に行っている職員やこの問題に関係の深い部局の職員を主な対象者としながら、全職員を対象に、テーマを「ヘイトスピーチにどう向き合うか～国内現行法と人種差別撤廃条約から考える～」とし、講師は、ヘイトスピーチ問題に詳しい東京造形大学の前田朗教授に依頼していると聞いております。

【6/19 本会議一般質問】(重要部分の一部のみ抜粋紹介)

<項目1：市の反ザイトク先進施策を貶めた法務役人の責任について>

戸田：事件当初から私は、許可取り消しの理論的説得や戦術提起、状況分析、対策協議などを行なっており、こんなおぞましい集会はすぐに許可取り消しされるものと思っていた。しかし10日間経ってもそうならないため、法務監察課長、課長補佐、森本総務部長らに面談調査したところ、
 @憲法の表現言論の自由のため、公共施設での集会の自由を保障しないといけない。
 @だからザイトクの集会であっても禁止する事が出来ない。
 ...というようなとんでもない考えを持って庁内で対応していた事が分かった。...

総務部長：新しい知見、市民目線に立った認識、行政手続の実務、過去の議会答弁の蓄積等に対する考察・研究不足から市の方針等も含め大所から行政責務を果たすための法律論などさまざまな角度の助言に至らなかったことを謝罪し、今後は見識を広めるべく努めて参りたい。

戸田：「住民の安全と尊厳を守る事行政責務」という理念が門真市の人権施策の土台である事を、改めて明言せよ。

総務部長：「市民の安全と尊厳を守ることは行政の責務」ということが、本市の人権施策の理念であり、市の見解と理解しております。

【5/2門真市教委見解】

「門真市教育委員会の考え方について」

2014年5/2(金)

本市教育委員会としましては、門真市民文化会館が多くの市民に利用される施設であるため、

本利用許可に反対の立場をとる者の妨害行為等により、他の利用者の安全確保が図れないことを危惧するとともに、

いかなる団体であれ、人権、民族、門地など人が生まれながらにして持ち、自ら選択する余地のない点や国籍などの属性を捉まえての差別行為は許されないと

いう姿勢に立ち、多くの子どもたちも利用する文化・教育の拠点である施設として、受け入れるべきではないという考え方

であります。本施設の指定管理者にも、市民目線に立った総合的な判断のもと、教育委員会の考え方と軌を一にした対応を求めます。

解説すると、

★優れているのは、「市教委は『差別を許さないという立場に立って物事を考える』という事を明記している点だ。

この文章構文を考えた人は偉い!

★さらに、「(ルミエールは)多くの子どもたちも利用する文化・教育の拠点である施設だから、その点からも受け入れるべきではない」、という事も加えている。

★その上に、「教委は指定管理者に対して、『市民目線に立った総合的な判断』のもとで教育委員会と軌を一にした対応を求める」、と締めくくっている。

これも「今後の実効性」をよく考えられた文章である。

◆つまり、「門真市民がおぞましさを感じたり危険性を感じたりするような、ザイトクの差別宣伝狙いの企画は、その表向き名称がどうであれ許可しない」、という事をこれは「示唆」しているのだ。

なかなか見事な言い回しではないか!

こういった優れた見解が作り上げられた背景には、今回の騒動を通じて「ザイトクの門真市への攻勢が今後も手を替え品を替え、いろんな屁理屈を使って起こり得る」という「現実的な危機感」を市教委・市長部局が強く持つようになったからだ。

「ザイトクが寄り集まる門真市になっていくのか?!」、という戸田の訴えに当局者が真剣に耳を傾けるようになったのだろう。

戸田議員より提供 平成26年8月8日